
ドラゴン・バスタード その5

青木弘樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドラゴン・バスタード その5

【Nコード】

N26450

【作者名】

青木弘樹

【あらすじ】

ついにクライマックス！レイと暗黒竜二世との最後の戦いが、いま始まるうとしている！

作：青木弘樹

(前回の続きです)

”ギイイイ…”

重い門を開け、レイは中に入った。

とてつもなく広い部屋の中央の奥に、暗黒竜二世はいた。大きな椅子に座っている。

大きさはさっきの黒い竜と同じくらいだが、色は深い紫色。そして得体の知れないオーラがあった。違う。さっきの黒い竜とは格が違う。レイはそう感じた。

「よく来たな。伝説の剣士シンの血筋の者レイよ」

「お前が暗黒竜二世か？」

「そうだ」

「世界の平和のため、お前を成敗しにきた」

レイは強気で言った。

「ふふふ…どうやらたくましく成長したようだな」

暗黒竜は余裕の表情だった。

(伝説の剣士シンよ、父よ、母よ、そしてグレンドさん、そして…ネオハルコンよ、我に力を！)

レイ剣と盾を、力強く構えた。

「ぐふふ…いいだろう。先代の恨み、今ここで晴らしてくれるわ」

暗黒竜が椅子から立ち上がった。

「くらえ！」

暗黒竜は青い炎の玉を吐き出した。

「くっ！」

”ビシッ！”

レイは盾で防いだ。

「でや！」

暗黒竜の腕が伸びた！そして鋭い爪がレイを襲う。

「うおお！」

レイは手に向かって剣を振り下ろした。

”ズバア！”

手のひらが半分引き裂かれた。

「ぐおお！」

叫ぶ暗黒竜。

「はああ！」

レイは素早くもう一方の腕に切りかかった。

”ズバア！”

「ぐああ！おのれ……」

もだえながらも、暗黒竜は再び青い炎の玉を3発ほど吐き出した。

”ビシ！ビシ！ビシ！”

レイはまたもや盾で防いだ。レイは互角の戦いをしていた。まるで伝説の剣士シンが乗り移ってるかのような、見事な戦いぶりだった。

「うぐぐ……」

暗黒竜は顔を歪めた。

「覚悟しろ！暗黒竜！」

しかし

「ふふふ……やるな。そしてそれはどうやらネオハルコンだな？」

「？……そうだ」

「なるほど。見事な切れ味だ。では私もそろそろ本気にならねばな……」

そう言つと、暗黒竜は真っ直ぐに立った。そして、

”ベリベリベリ！”

なんと暗黒竜の体が真っ二つに引き裂かれた。

「!?!」

そして中から人に近い形の魔物が現れた。全長は3メートルくらいだろうか。体の色はさつきと同じ紫色だ。

「ふふふ…驚いただろう? 図体がでかいと動きも鈍くなる。これが進化した真の暗黒竜だ」

「…」

レイはその不気味な姿に戸惑った。小さくなったというのにさつきよりオーラを感じる。

「さて…」

暗黒竜は置いてあつた剣を手に取った。

「これは、お前と同じネオハルコンで作られた剣だ」

しかしその剣はレイの剣より一回りほど大きかった。

「遊びは終わりだ。そろそろ本番を始めよう」

暗黒竜は間髪いれずに向かってきた。

”ガキン!”

レイは暗黒竜の攻撃を盾で受け止めた。

(速い!)

「むん!」

暗黒竜は再び剣を盾に振り下ろした。

”ガキン!”

そして

”ビシッ!”

「なに?」

盾は真つ二つに割れた。

「ふふふ…」

見ると暗黒竜の持っている剣は怪しいオーラに包まれている。

(魔物の…オーラか…?)

「素材が互角でも、人間と魔物では、魔物のほうが上のようだな」

「く…」

「死ね!」

襲いかかる暗黒竜。

”ギン！ガキン！”

両者の剣が激しくぶつかり合う！

「はあはあ……」

レイは気迫で押されていた。

「はあ！」

なおも襲いかかる暗黒竜。

”ギン！ガキン！ズバツ！”

「うわっ！」

レイは腕を切られた。そんなに深い傷ではないが、状況は不利になった。

「ふふふ……」

暗黒竜は余裕の表情だ。

「まだまだいくぞ！」

容赦なく襲いかかる暗黒竜。

”ギン！ガキン！ズバツ！”

「ぐわっ！」

今度は足を切られたレイ。状況はますます不利になった。

「はあはあ……」

「ふふふ……お前の死が、一步一步近づいているようだな」

「はあはあ……」

レイは歯を食いしばった。

(ここまで来て……負けるわけにはいかない。ここまで来て負けてしまったら……母さんや、グレンドさんの死が無駄になってしまう。負けるわけには……いかないんだ！)

「うおおお！」

レイは剣を大きく構えた。

「ほほう……くるかレイ」

「うおおお！」

レイは暗黒竜に向かって突っ走った！

「こい！」

暗黒竜もそれに対して構えた。

「うおおお！」

レイの剣はぼんやり光っていた。レイは剣をおもいきり振り下ろした。

「はあ！」

”ガツキン！”

二つの剣がぶつかった。そして、

”ビシビシビシ！”

二つの剣にひびが入り、

”ピシヤア！”

なんと二つの剣は砕け散った！

「くっ……」

暗黒竜は焦ったようだった。

「やるな！だが……」

暗黒竜は両手でレイの首を絞めた。

「お……」

「ふはは……武器を持たない人間など、ただのクズだ！」

「……」

レイは声が出せなかった。

「死ねえ！」

「……」

レイはもう駄目だと思った。その時、

「レイ！これを使え！」

なんとカイルが来た。そしてレイに向かってオリハルコンの剣を投げた。

「……」

”パシイ！”

レイはそれを受け取った。

「なにぃ！？」

そして

”ドガア！”

暗黒竜の脳天めがけて突き刺した。

「ぐおおお！！」

その瞬間、オリハルコンの剣は光った。そしてほんの一瞬、シンの姿が見えた気がした。

「バカなああ！」

”ドサア！”

暗黒竜は倒れこんだ。

「はあはあ……」

レイは今にも倒れそうだったが、必死に踏ん張った。

「ぐぐぐ……」

暗黒竜は遠くを見ていた。

「はあはあ……」

レイは立っているのがやっとだった。

「レイ！」

カイルがレイに近寄った。

「レイ！やったぞ！暗黒竜を倒したぞ！」

「はあはあ……やった……やったぞ」

レイはカイルにもたれかかった。

「ふふふ……見事だな……」

暗黒竜はかすれた声で喋りだした。

「だが覚えておけ……平和など……ほんの一時に過ぎぬ。いずれ……人間
どうして争うか……また巨大な魔物が現れるか……どちらかだ。せいぜ
い……つかの間の平和を……喜んでるがいいわ……ぐふっ」

暗黒竜は息絶えた。

「……」

レイは疲れ果て、言葉も出なかった。

「行こうレイ。飛鳥も待ってる。帰ろう。もう終わった。すべて終
わったんだよ」

三人は船に乗り、サザンの町へと帰って行った。
こうして、世界は平和になった。

一週間後。

魔物はほとんどいなくなった。

レイはまだ完全に傷が治ってないとはいえ、元気だった。

レイの活躍は世界に知れ渡り、またひとつ伝説が生まれた。

カイルは盗み出しておいたオリハルコンの剣をそっと戻しておいた。

カイルはまた旅に出ていた。どうも一カ所に落ち着くのは性に合わないようだ。

飛鳥はシルバランド城下町で占い師をしていた。父と同様、自分が戦ったことは世に知らせずに。

レイは今後はゴルドランドの復興に力を注ぐつもりだ。自分が王になることはないが。

ブラック大陸をどうするかについては、まだ何も決まっていない。とにかく、世界は平和を取り戻した。

暗黒竜の言ったとおり、平和がいつまで続くかは分からない。

人は争う生き物だ。

だが、どんなに世界が混乱しても、暗闇に包まれても、世界は終わらない。

永遠に…世界は終わらないだろう。

The End

(後書き)

ありがとうございました

もしよかったら、他の作品も観ていただけたら幸いです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2645o/>

ドラゴン・バスタード その5

2010年10月11日19時25分発行